

## ■ 受賞者業績

### 「第28回青森県農業経営研究協会賞」受賞者

企業の経営管理と農業機械・施設の効率的  
利用による高収益野菜経営の確立  
また、この経営活動を通じて五戸台地など  
地域農業の活性化と後継者育成に貢献



高村夫妻

受賞者氏名	高 村 國 昭 (たかむら くにあき)
年 齢	昭和 25 年生まれ・59 歳
住 所	三戸郡五戸町大字倉石石沢
経 営 内 容 (平成 21 年)	家族数 10 人 (本人夫妻、長男夫妻、次男、三男、父母、長男の子) 農業労働力 家族 7 人 臨時雇用 延べ 570 人 経営耕地面積 水田 125 a 転作田 115 a 普通畑 710 a 作付作目 水稻 125 a ネギ 200 a ニンニク 150 a ゴボウ 150 a コカブ 130 a ナガイモ 40 a マルイモ 40 a その他 115 a

# 1 経営の発展経過と概要

## (1) 地域の概要

高村氏の暮らす五戸町倉石地域は青森県東南部に位置する純農村地帯で、戸来岳に水源を持つ五戸川が中央部を西から北東に流れ、この川を挟むように水田が広がり、その両側が丘陵地帯となっている。

地域の基幹産業は農業で、野菜・畜産・果樹等を組み合わせた複合経営が多く、ニンニク等露地野菜や倉石牛の産地として有名である。

また、近年では国営五戸台地開発事業により造成された357haの農地を活用して、経営規模拡大や生産性向上に取り組む農業者も多い。

表1 経営耕地面積

(単位：ha、経営体、%)

区分	地目	経営耕地 面積合計	田		畑		樹園地	
			経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
青森県		115,255	44,263	67,001	23,862	29,927	18,730	18,327
(構成比)		100.0		58.1		26.0		15.9
五戸町		3,105	1,647	1,522	1,320	1,336	467	248
(構成比)		100.0		49.0		43.0		8.0

資料：2005年農林業センサス

表2 農家数及び農業就業人口

(単位：戸、人、%)

区分	項目	総農家数	販売農家計			自給的農家	農業就業人口 (販売農家)	
			販売農家計	専業農家	第1種兼業			第2種兼業
青森県		61,587	50,790	11,787	14,431	24,572	10,797	96,166
(構成比)		100.0	82.5	23.2	28.4	48.4	17.5	
五戸町		2,103	1,720	436	405	879	383	3,123
(構成比)		100.0	81.8	25.3	23.5	51.1	18.2	

資料：2005年農林業センサス

注1) 販売農家及び自給的農家は総農家数の内数であり、専業及び兼業農家は販売農家の内数である。

表3 農業産出額（平成18年）

(単位：1,000万円、%)

区分	作目	合計	米	麦・豆 雑穀	いも類	野菜	果実	花き	工芸 農作物	肉用牛	乳用牛	その他 畜産	その他
(構成比)	100.0	20.4	0.7	0.8	22.6	26.7	1.0	2.4	2.8	2.4	19.2	0.9	
五戸町	963	118	5	4	349	87	4	21	38	×	306	10	
(構成比)	100.0	12.3	0.5	0.4	36.2	9.0	0.4	2.2	3.9		31.8	1.0	

資料：第54次青森農林水産統計年報

注1) 産出額の欄の「×」は数値が公表されていないことを示す。

## (2) 運送会社から農業経営への転身

高村氏は、昭和45年に十和田市内の運送会社に就職し、平成15年までの34年間勤務した。この間、会社経営の一部を任せられるなど、企業経営の能力を培いながら、平成16年には社長就任を内定されるに至った。

一方、会社勤めの傍ら、両親の営農を見守りつつ長年にわたって農業への関心も胸に秘め続けてきた。そして、社長となったとしてもオーナーが存在する以上、会社は自らのものにならないと考え、農業経営はやり方によっては発展が見込まれ、かつ、その経営を自らの所有にできることから、常々、農業転身への機会を窺ってきた。

平成15年、会社社長への就任が内定される状況の中で、両親の守ってきた経営の立て直しと家業継続の必要性を強く感じ、また、他産業に従事する2人の息子にその経営を継承させるため、残された時間を有効に利用しようと同年10月、53歳で退職し就農することを決断した。

## (3) 企業経営感覚に立脚した農業経営の基本方向

これから農業経営を営んでいくに際しての基本的な考え方は、掲げた収入目標を実現するために必要となる農地・設備・労働力など、経営規模の拡大を図ることであり、今ある経営規模の中で収入目標を設定するという、従来の農業経営にありがちな考え方ではなく企業的な発想といえる。

将来的な経営目標は60歳までに販売額5,000万円達成と設定し、その実現に向けた農地の拡大、労働力の確保を図ることとした。

## (4) 五戸台地を主体に借地による経営耕地の拡大

規模拡大は借地によることを基本とし、それまで作物生産での利用が少なかった五戸台地の保全管理地を借り受け、就農当時（平成16年）2.9haだった経営面積は平成21年には9.5haと3.3倍も拡大した。

高村氏の借地活動と経営実績の拡大に刺激され、周辺農業者の営農意欲が高まり、遊休地の借り手も増加し、五戸台地の利用率が向上するなど地域への波及効果が顕著となっている。

## (5) 「ネギ」、「ニンニク」を基幹とした周年収入体系の確立

野菜の作目導入に際しては、比較的市況の安定している「ネギ」と「ニンニク」を基幹としながら労働力配分を考慮し、「ゴボウ」と「ナガイモ」を導入している。

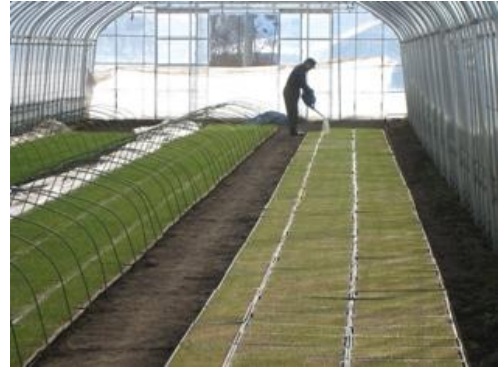
また、安定生産の基礎となる輪作体系は、「ネギ」＋緑肥＋「ナガイモ」＋「コカブまたはニンニク」＋「ゴボウ」を基本パターンとして確立している。

一方、日常の経営管理及び家計運営のため、年間を通してコンスタントな収入を確保するため、作付体系として5月から7月まで販売できる「コカブ」を地域に先駆けて導入し、7月下旬から11月初めまでは「ネギ」、11月以降は「ゴボウ」と「ナガイモ」、冬から春にかけては「ニンニク」の出荷と切れ目のない販売体系を確立している。

各作目の栽培面積で最も大きいのは「ネギ」の2haで、次いで「ニンニク」1.5ha、「ゴボウ」1.5ha、水稲1.3ha、そして「コカブ」、「ナガイモ」、「マルイモ」となっている。（平成21年）



ねぎ苗箱設置作業



ねぎ苗の薬剤散布

## (6) 家族経営協定を通じた家族員の役割分担の明確化

経営規模の拡大に応じた労働力の確保と将来の経営展望を見据えて夢を伝えた結果、平成18年には建設会社勤務の長男が就農し、平成20年には調理師として中華料理店で修行中の次男が就農した。

このことで、家族一丸となった経営体制を整備することができた。

平成18年には長男と、平成20年には次男とそれぞれ家族協定を結び、経営内における家族員の役割分担と労働条件、報酬の明確化、後継者の将来展望を見据えた担当部門の設定を行っている。

経営主の高村氏は「ニンニク」「ゴボウ」の栽培管理、機械作業全般を担当し、妻は選別・出荷調整、雇用管理、農業簿記及び申告を担当している。

長男とは将来の経営委譲を念頭に「ネギ」と「水稲」のほか、防除作業全体の担当を協定し、次男とはハウス部門の「ミニトマト」の担当を協定することにより、責任を明確にしている。

高村氏の妻は、町内の農村女性起業組織「カマラードの家」に参加し、『にんにくボール』や『紅玉アップルパイ』、現在では貴重な在来種のものぎを用いた『よもぎ茶』や『よもぎ草だんご』など、加工品の開発・販売に取り組んでいる。



「カマラードの家」加工品

## (7) 経営の規模拡大に対応した計画的な設備投資

高村氏が農業に専従した平成16年以降、栽培面の機械化のため、ごぼう掘取機、ブームスプレーヤの導入、出荷・調整作業の効率化のためのごぼう・ねぎ選別機の導入、作業効率改善のため作業場の新築・増築を進めてきた。

この結果、平成20年の雇用費は18年の354万円から202万円と約43%削減している。

## (8) 水稲は地域の営農組合で共同化

北部地区水稲営農組合に加入し、共同育苗、田植機、コンバイン等の共同利用によって稲作の省力化、機械・施設費の節減低を図っている。

平成20年から飼料用米の直播栽培を導入し、平成21年には10a当たり467kgとまずまずの収量を得ることができた。この栽培技術の導入によって育苗経費の削減など、さらなるコスト低減を目指している。

## (9) 専従後わずか4年で販売額3,150万円を達成

最終目標販売額5,000万円に向かう途上、平成15年の101万円から平成19年には3,540万円、農業所得1,102万円、平成20年には野菜価格の低迷にも拘わらず3,150万円、農業所得800万円の実績を上げている。

このことにより高村氏は、青森県農業経営研究協会賞選考基準の指標「世帯当たりの年間農業所得が概ね600万円以上」を既にクリアーしている。

目標とする5,000万円達成に向けて農地規模は現状維持しながら、栽培技術の向上による生産ロスの減少、土づくりの徹底による生産の安定と品質の向上を図ることとしている。



家族経営協定合同調印式  
(左側手前より本人、妻、次男)

## 2 経営の生産性など地域での位置づけ

### (1) 主要品目の生産性

収量は、平成20年度農業経営実態調査に基づく経営分析結果(県農林水産政策課調べ)の三八地域の調査値に比べ「ニンニク」が13%、「ネギ」が3%、「ゴボウ」が84%上回っているが、「ナガイモ」は18%下回っている。

販売単価は、同様に「ニンニク」が60%上回っているものの、「ネギ」が12%、「ナガイモ」が3%下回っている。

以上のことから、収量性に関しては地域の水準を上回る位置にあるものの、販売単価が「ニンニク」を除いて下回っていることから、品質の向上及び販売方法の工夫が今後の課題である。

表4 主要品目の生産性

野菜の種類	三八地域		高村氏の経営		三八地域／高村氏	
	10a収量 (kg)	kg単価 (円)	10a収量 (kg)	kg単価 (円)	収量 (%)	価格 (%)
ニンニク	849	860	955	■	113	■
ネギ	3,342	271	3,440	■	103	■
ナガイモ	3,380	214	2,763	■	82	■

資料：平成20年度農業経営実態調査に基づく経営分析結果(県農林水産政策課)及び三八地域県民局地域農林水産部・青森県農業経営研究協会賞候補者推薦書資料

### (2) 品質の向上と生産ロスの減少

長年「ナガイモ」等を連作した圃場を借地したため、土壌病害の発生による品質の低下、地力の低い痩せ地の多かったことから、「ネギ」の成育不良や病害の発生による生産ロスが多かった。

これまでも鶏糞の投入など地力強化に努めてきたが、生産ロスをさらに減らすため、「ナガイモ」圃場の土壌消毒、堆肥や土壌改良材の投入による地力増強を図る。

### 3 複式簿記による経営管理と計画的な資金運用で堅実な経営

#### (1) パソコンを活用した経営管理

就農前の平成14年から、パソコンで父の代からの資産と負債の状況把握、資金繰りなど経営管理を行い、複式簿記を記帳し青色申告を実施してきた。

現在も部門別の経営収支（損益計算書）及び財産の状況（貸借対照表）を正確に把握し、目標に向けた堅実な計画の策定を行っている。

#### (2) 制度資金を活用した健全経営

機械・施設の導入にあたり補助事業（機械リース事業等）や制度資金（スーパーL資金）を活用して過剰な投資を抑制し、健全経営に徹している。

長期借入金の残高は1,200万円であるが、全てスーパーL資金であり、年間償還額が減価償却費を下回っていることから借入金の償還が容易である。

#### (3) 経費節減に徹した経営管理

投資がかさむ農地の買い取り取得でなく、借地による規模拡大で過剰な投資を避けている。

野菜収穫機や選果機・選別機の導入、作業小屋の新築等により複数品目を同時に出荷調整するなど作業の効率化を図り、雇用費の削減に努めている。

農業資材の購入に際して複数の販売業者を比較の上、安いものを仕入れるなど生産資材のコスト低減に徹している。

水稻部門は共同育苗及び機械共同利用によりコスト低減を図っている。

### 4 野菜の安定生産のための土づくり対策

「ネギ」と「ニンニク」を基幹に「ゴボウ」や「ナガイモ」を組み合わせた輪作体系を確立している。

毎年、発酵鶏糞を10a当たり2.5~3t施用し、その後土壌診断の結果に基づき10a当たり100kg前後の発酵豚糞を投入している。来年からは、発酵鶏糞・発酵豚糞・牛堆肥を組み合わせた土づくりを行い、肥料コストの削減も図る。また、「ナガイモ」の後にスダックスなど、緑肥作物の作付け・鋤き込みによる地力向上を図っている。

「ネギ」、「ニンニク」の作付け圃場は、毎年土壌診断を実施し、この他の圃場は隔年で行っている。

### 5 地域農業振興への貢献と波及効果

#### (1) 地域のリーダーとして指導力を発揮

平成16年、就農と同時に五戸町の教育委員、土地改良区総代、農協運営委員として幅広く地域リーダーの役割を担うとともに、倉石北部地区水稻営農組合長として水田農業の振興及び当組織の平成22年3月の法人設立に向けて活動している。

高村氏は就農後、短期間で高収入を達成した実績が高く評価され、周辺農家も「やればできる」と営農意欲を喚起された。その結果、五戸台地の保全管理地の活用が促進されるなど地域農業への波及効果が高まっている。

自ら実践している「ネギ」の栽培が地域で注目され作付けが拡大するとともに、新たに導入した「コカブ」も普及するなど、周辺地域での模範として野菜振興に寄与している。

## (2) 若い農業者の育成指導

自らの経営実践を若い農業者に伝達する努力を重ねた結果、他産業に従事していた集落内の2組の若夫婦(20代と40代)が農業に専従するなど、後継者の確保に大きく貢献した。

# 6 夢に向かって家族一丸となった農業経営～今後の課題～

## (1) 家族の力を結集して目標達成に

今後は経営規模の拡大より、生産物の品質向上と生産ロスの減少を図りながら販売額5,000万円の目標達成に向けて取り組むことが必要である。

将来は、栗や銀杏など木の実を主体とした観光農園の開設やそれに付随した妻の農産物加工品の販売店、調理師である次男を中心とした農家レストランの経営も計画しており、家族それぞれが経営内で役割分担しながら夢の実現に向かっていく。

現在、農業所得800万円に対して農業専従者が6人であり、特に長男の結婚生活や次男の今後の結婚等を考慮すれば、夢を実現させるためにも近い将来1,500万円に引き上げることが必須となる。

このため、次男の労働力の増加分を考慮したハウス部門の規模拡大、妻主体で取り組んでいる加工・直売部門の強化が必要である。

農業所得1,500万円、6次産業化を実現した場合、販売面の信用拡大、従業員等の福利厚生、制度資金の利用、税金等の観点から法人化が求められる。

## (2) 農業機械の長期使用による経営基盤の強化

高村氏の経営は、農業機械取得費が約1,800万円に及ぶ機械化された野菜経営である。今後機械の故障は自ら修理するとともに、農閑期に分解・掃除などのメンテナンスを実施することによって機械の更新時期を延長し、機械費節減による経営基盤の強化が必要となる。

このため、農協の機械修理センターを活用した機械の保守・点検といった基本技術の取得が必要である。

さらに、長期的には修理技術やメンテナンスを可能とする機械の分解・組み立てなど高度な技術を取得することで経営の将来的発展の保証となる。このことは、地域の若い農業者にとっても重要な技術であることから、農協と連携した高村氏の強い指導力を期待するものである。



## 7 参考付表〈高村氏の経営概要〉

### (1) 家族と労働力 (平成21年10月20日現在)

(単位：歳、日)

氏名	続柄	年齢	年間農業 従事日数	年間兼業 従事日数	備考
高村 國昭	本人	59	230	50	
	妻		240	30	
	長男		250	0	
	長男の妻		150	0	
	長男の子		0	0	
	長男の子		0	0	
	次男		250	0	
	三男		0	250	
	父		240	0	
	母		240	0	

### (2) 経営耕地面積 (平成21年)

(単位：a)

地目	面積				備考
	所有地	借入地	共有地	計	
水田	125			125	
転作田	115			115	
普通畑	110	600		710	

### (3) 農作物の生産状況 (平成20年)

(単位：a、kg、円)

作物名	作付 面積	数量		仕向け内容						
		10a 当たり 収量	総量	販売			経営		家計	
				数量	単価	販売額	種子	金額	数量	金額
水稲	120	581	6,977	6,390					587	
ニンニク	150	955	14,324	9,518				4,800	0	6
ネギ	170	3,440	58,478	58,396						82
ゴボウ	120	3,303	39,631	39,280						351
コカブ	60	2,043	12,257	12,210						47
マルイモ	50	914	4,570	4,556						14
ナガイモ	30	2,763	8,289	8,248						41
ミニトマト	4	2,493	997	994						3

(4) 農機具の所有状況 (平成20年)

(単位: 台、年、円)

No.	種 類	規格・能力	台数	取得年	取得価額
1	トラクター	30PS	1	H1	1,800,000
2	トラクター	36PS	1	H10	4,200,000
3	播種機		1	H14	220,000
4	パソコン		1	H14	338,000
5	トラック	2t	1	H10	1,000,000
6	軽トラック		1	H17	570,000
7	軽トラック		1	H18	51,429
8	耕運機		1	S62	250,000
9	管理機		1	S62	250,000
10	管理機		1	H17	400,000
11	トレーラー		1	S61	400,000
12	ミニモール		1	S57	500,000
13	テラー		1	H2	226,000
14	暖房機		1	H2	393,300
15	ハーベスタ		1	H4	545,000
16	野菜選果機		1	H4	433,000
17	マルチ張機		1	H16	650,000
18	ブロードキャスター	320kg	1	H16	200,000
19	トレンチャー	ホイール1連	1	H17	650,000
20	野菜洗浄機		1	H18	240,000
21	ドライブハロー		1	H18	250,000
22	ブームスプレーヤ	500リットル	1	H18	1,000,000
23	ごぼう掘取機		1	H19	669,500
24	草刈機		1	H19	260,000
25	播種機		1	H19	214,935
26	温風器		1	H19	376,800
27	わき掘機		1	H19	150,000
28	ごぼう選別機		1	H20	964,250
29	ねぎ選別機		1	H20	1,298,250

(5) 施設・建物の所有状況 (平成20年)

(単位: m<sup>2</sup>、年、円)

No.	種 類	構 造	規模	取得年	取得価額
1	パイプハウス		198	S58	210,000
2	パイプハウス		198	S60	157,000
3	パイプハウス		198	H11	292,769
4	パイプハウス		264	H19	590,935
5	車庫	鉄骨	108	H57	2,500,000
6	作業場	木造		H54	1,200,000
7	作業場	木造	19	H9	1,250,000
8	作業場増築	木造	59	H17	2,520,892
9	作業場	木造	264	H19	10,446,482

(6) 作物別経営収支 (平成20年)

(単位:円)

項目	経営全体	作物別							
		水稲	ニンニク	ネギ	マルイモ	ナガイモ	ゴボウ	コカブ	ミニトマト
粗収益	■	■	■	■	■	■	■	■	■
経 営 費	租税公課	■	■	■	■	■	■	■	■
	種苗費	■	■	■	■	■	■	■	■
	肥料費	■	■	■	■	■	■	■	■
	農具費	■	■	■	■	■	■	■	■
	農業衛生費	■	■	■	■	■	■	■	■
	諸材料費	■	■	■	■	■	■	■	■
	修繕費	■	■	■	■	■	■	■	■
	動力光熱費	■	■	■	■	■	■	■	■
	作業用衣料費	■	■	■	■	■	■	■	■
	共済掛金	■	■	■	■	■	■	■	■
	減価償却費	■	■	■	■	■	■	■	■
	荷造運賃手数料	■	■	■	■	■	■	■	■
	雇人費	■	■	■	■	■	■	■	■
	支払地代	■	■	■	■	■	■	■	■
	賃借料	■	■	■	■	■	■	■	■
	土地改良費	■	■	■	■	■	■	■	■
	その他	■	■	■	■	■	■	■	■
	合計	■	■	■	■	■	■	■	■
所得	■	■	■	■	■	■	■	■	